

君津青葉高等学校総合学科の特色を生かしたキャリア教育の取組

1 目的

君津青葉高等学校は、平成11年4月に千葉県で2校目の総合学科を設置する高等学校としてスタートした。総合学科では、幅広い選択科目の中から生徒が自ら科目を選択して学ぶことができるため、生徒の個性を生かした主体的な学びや、将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学びが、他の学科に比べて多い傾向にある。

本校総合学科でも、次のような学びを提供してきた。

- ・1年次の科目「産業社会と人間」で、自分の適性や進路について考えられる。
- ・2年次以降、自分の進路にあわせて学習内容（系列）を決められる。
- ・専門高校（農業，工業，商業，家庭，福祉）と普通高校の学びを選択できる。
- ・実験・実習等の体験を中心とした科目を少人数で学べる。

総合学科では全ての生徒が原則として入学年次に履修する科目「産業社会と人間」が、キャリア教育のスターターとしての役割を担っている。

令和3年4月に新入生を対象に実施したアンケート結果でも、多くの生徒が2年次以降の系列の学習に期待して入学しており（図1）、1年次の段階で進路への自覚や就業を見通した将来計画、進路目標の設定などを確実に行うことが、本校がもつ実験・実習等の体験を中心とする系列の学びを充実させる鍵になると考えた。

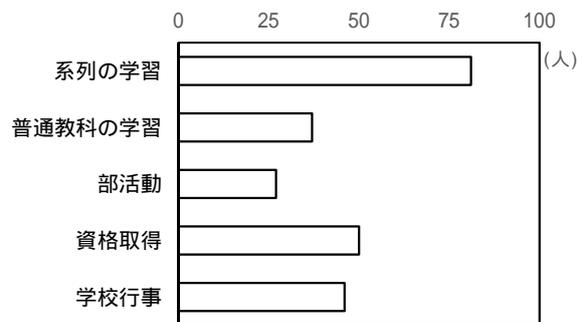


図1 新入生を対象としたアンケート結果（4月実施）
質問：君津青葉高校で頑張りたいことは何ですか。

2 取組と成果

一斉展開の授業だけでは見通しをもちにくい将来の自分をイメージする『きっかけ』づくりなど、進路指導部を中心に各系列や学年と連携しながら、学校全体で組織的に取り組んできた本校のキャリア教育について報告する。

（1）将来の自分をイメージするための取組

ア）卒業生と話す会（1年次の10月に実施：科目「産業社会と人間」）

各系列の卒業生6名を招いて、高校時代に系列で学んだことや進学・就職して大切にしていることなどをテーマに、パネルディスカッション形式で実施した。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、収録した動画を視聴するかたちで実施した（図2）。



図2 卒業生と話す会

【生徒の声】

社会人として活躍する身近な先輩の体験談を聞いて、将来を考えて高校時代に頑張ることを見つけようと思いました。

イ) 職業人講話 (1年次の10月に実施: 科目「産業社会と人間」)

社会人2名を招いて、職業人としてのやりがいや苦労したこと、高校時代に身に付けてほしいことなどをテーマに、講話形式で実施した。今年度は、講師が本校卒業生であったこともあり、生徒にとっては将来の自分をイメージする良い機会となった(図3)。



図3 社会人講話

【生徒の声】

地元で活躍する先輩方が自分達の先輩であったことに驚きました。

講師が話していた「しつこく努力し続けることが大切。」は、先生がいつも言っていることと同じだった。

ウ) 企業見学 (1年次の12月に実施: 科目「産業社会と人間」)

本校卒業生が就職している会社を中心に、クラスごとに企業見学を実施した(図4)。



図4 企業見学

【生徒の声】

実際に働いているところを見て、自分のイメージしていた以外にも多くの仕事があることが分かりました。

エ) 3年次生による進路体験発表会 (1年次の1月に実施: 科目「産業社会と人間」)

進路が決定した3年次生を講師として、進路決定までの取組やエピソード、進学・就職に向けた具体的な取組などの体験談をパネルディスカッション形式で実施した(図5)。



図5 進路体験発表会

【生徒の声】

身近な先輩が内定をもらった体験を聞いて、系列で勉強したことを生かして就職できることが分かりました。

オ) ライフプランの作成 (1年次の3月に実施: 産業社会と人間)

1年間の学習を基に、将来の職業選択を視野に入れたライフプランを作成した。

【生徒の声】

簡単だと思っていたが、自分の将来を考えることがとても難しいことだと分かりました。

カ) インターンシップ (2年次の7月に5日間実施: 学年・系列)

働く意義や人間関係の在り方、働く喜びや厳しさを体験し、進路選択能力を育成するために、各系列の専門的な授業の延長としてインターンシップを実施した。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、規模を縮小したり実施時期を変えたりして実施した(図6)。



図6 インターンシップ

【生徒の声】

実際に5日間働いてみて、感謝されることの喜びを感じました。

キ) 就職ガイダンス「就職活動準備支援コース」(2年次の2月に実施:学年)

働くことへの動機づけや面接での表現など、生徒自身に自ら考え行動させることで就職力を高めることを目的に実施した。本事業は、厚生労働省の委託事業である。進学希望者が自己PRや志望動機を考える上でも有効な内容であるため、2年次生全員が受講した。

【生徒の声】

来年からスタートする就職活動について、意識することができました。

(2) 自分の現在地を確認し、学び方を身に付けるための取組

ア) 高校生のための学びの基礎診断(1・2年次の4・9月、3年次の4月に実施:学年)

3年間で5回実施する基礎力診断テストを通して、自分の現在の学力を知り、その結果から自分の進路を実現するための目標値を設定することを目的に実施した。この結果は、教員が基本的な学習方法の指導する際にも活用した。

イ) 田植え・稲刈り体験(1年次の5月と9月に実施:科目「産業社会と人間」)

単なる体験で終わらせないように、知識と体験を結びつけることを目的に実施した。収穫した米は持ち帰り家庭で試食した(図7)。



図7 田植え

【生徒の声】

自分の家でも作っているが、自分が栽培に関わったお米は特に美味しく感じました。

ウ) 青葉チャレンジ(全学年で年間を通して実施:学年)

義務教育段階での学習内容の確実な定着を図る具体的な取組として、毎朝のSHR前に10分間の朝学習を実施した。個々の学習段階におけるつまづきを発見させ、基礎的・基本的な学力を定着させるとともに、自己の進路実現に向けた取組とすることを目的とした。青葉チャレンジの取組は、学習習慣の確立や1日の授業のウォームアップとしての役割を果たした。

【生徒の声】

朝の10分間がないと、何か落ち着かない気持ちになってきました。

朝の勉強の習慣ができてきました。

(3) 外部と連携して各系列の学びを充実させる取組

ア) 食育活動支援事業(2、3年次の9~11月に実施:農業系列)

本校の生徒が指導者として、本校天王原キャンパスでの小中学生の農業体験をサポートした。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、10月のプログラムは職員で対応したが、11月以降は本校生徒と小中学生との農業を通じた交流を予定している。

【生徒の声】

地元の公民館との連携はこれまでも行ってきたので、新鮮な感じはしないけど、小中学生と交流するのは楽しみにしています。

イ) 測量新技術講習会 (2年次の10月に実施: 土木系列)

君津市測量設計業協同組合の協力を得て、地元の測量会社8社による最新測量機器の体験実習を実施した。当日は、トータルステーション自動追尾、電子レベル、GNSS測量、地上レーザースキャナー、UAV測量などを体験した(図8)。

【生徒の声】

難しそうに見えたが、実際にやってみると簡単だった。ドローンの操作はスマートフォンの操作とあまり変わらなかった。技術の進歩を体験できました。



図8 測量新技術講習会

ウ) 安全衛生特別教育研修等 (2年次の7月と12月に計6日間実施: 環境系列)

林業就業支援に関する事業を活用し、刈払機やチェンソーを安全に使用し、仕事として使用する際に必要となる安全衛生特別教育研修を実施した(図9)。

【生徒の声】

講師が卒業生ということもあり、自分も先輩のいるところで学んだことを生かして働きたいと思いました。



図9 安全衛生特別教育研修

エ) 地域農業を知る会 (2年次の10月に実施: 農業系列)

地域農業の理解を深め、就農を促進することを目的に、地元の草花農家や農産物直売所等を見学した(図10)。本事業は、君津農業事務所主催で実施している。

【生徒の声】

僕たちが住む地域には、先進的な農家が沢山あることを知りました。工夫次第では、稼げる農業も夢じゃないかな。



図10 地域農業を知る会

4) 卒業前の総仕上げのための取組

ア) 社会人準備セミナー (3年次の12月に実施: 学年)

自信をもって社会人の第一歩を踏み出せるよう、社会人として必要な知識や心構えを学ぶことを目的に、ジョブカフェちばの協力を得て実施した。

【生徒の声】

名刺交換や電話対応の練習をして、いよいよ社会人になるのだと思った。

イ) スーツの着こなし講座 (3年次の1月に実施: 学年)

青山商事株式会社の協力を得て、身だしなみと第一印象の重要性、スーツの着こなしポイント、慶弔のマナーなどのビジネスマナーを学ぶ講座を実施した(図11)。

【生徒の声】

先生から制服の着こなしについて注意されてきましたが、身だしなみの大切さがわかった。



図11 社会人準備セミナー

取組の成果をまとめると、次の通りである。

- ・科目「産業社会と人間」や系列の学びを通して、社会的・職業的自立に向けて必要な基本となる資質・能力を育成できるようになった。
- ・生徒が自己の将来を設計し、主体的に進路選択ができるよう、地域や産業界と連携するとともに系統的なキャリア教育を実施できるようになった。
- ・地元企業等と連携した職場見学、職業体験、インターンシップ及び社会人講話等、地元への愛着を深めるキャリア教育の推進を図り、地域を担う人材を育成できるようになった。
- ・地域や産業界等との連携によるインターンシップを実施し、望ましい勤労観・職業観を育成できるようになった。

3 準備・実施段階の工夫

- (1) 進路指導部を中心に、各系列や学年と連携しながら実施することで、学校として組織的な取組になるよう工夫した。
- (2) 地域の教育力を最大限に生かしながら実施することで、地域と連携した取組になるよう工夫した。
- (3) 単発ではなく、様々な切り口で生徒にアプローチすることで、将来の自分をイメージする『きっかけ』となる取組になるよう工夫した。

4 広報・報道実績

- (1) 広報きみつ11月号(図12)
- (2) ホームページでの情報発信(図13)

学校の教育活動の様子は、本校ホームページで情報発信してきた。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、学校への人の出入りが制限されている状況が続いている。このため、保護者への情報提供、中学生への広報活動、本校教職員の情報共有のツールとしてホームページを活用してきた。4月からの更新件数は約60回である。



図12 広報きみつ11月号



図13 ホームページでの情報発信

5 卒業生、保護者の声

(1) 卒業生の声

ア) 卒業生(土木系列)

私は土木職の公務員になるという目標をもって入学し、2年次から土木系列で学びました。土木系列では、幅広く専門的な知識・技術を学び、資格取得にも積極的に取り組みました。希望の職業に就く方法がわからず、悩むこともあると思います。そんな時、一緒に考えながら全力でサポートしてくれるのが、君津青葉高校の先生方でした。

イ) 卒業生(普通系列)

私は「産業社会と人間」の授業で将来について考え、1年次の冬に看護学校への志望を決めました。2・3年次は進学に必要な教科・科目を学ぶため普通系列を選びました。

看護学校では、知識はもちろん様々な看護技術も学びます。厳しさを覚悟して入学したつもりですが、想像以上に大変で、心が折れそうになることもあります。患者さんの笑顔や「ありがとう」の一言にこの道を選んで良かったと実感しています。

ウ) 卒業生(家庭・福祉系列)

人と関わる仕事がしたいと思い選んだ家庭・福祉系列では、夏休みに福祉施設での実習がありました。利用者様や職員の方々と関わりながら、介護の仕事について学びましたが、印象に残ったのは「利用者様のニーズを把握する」ということでした。

キャディの仕事体験に参加した際、お客様の立場になって考える「おもてなしの精神」で仕事をしていることを知り、これは系列で学んだことを生かせると考え、キャディになることを決めました。

(2) 保護者の声

保護者を対象に実施したアンケート結果では、「本校の教育活動の強みは何ですか。」という質問に対して、次のような回答があった(令和3年9月に実施)。本校のキャリア教育を含めた教育活動について、保護者の理解が進んできたことが読み取れる。

- ・専門分野(系列)を選択して学べる。
- ・資格が取得できる。
- ・将来に役立つ学習ができる。
- ・様々な体験ができる。
- ・学び直しができる。
- ・2年生から系列を選択できる。
- ・教師と生徒との関係が良い。
- ・少人数制で指導を受けられる。
- ・将来の選択肢が広がる。
- ・生徒に合わせた指導をしてくれる。

6 今後の方向性

総合学科の特性を生かした本校のキャリア教育は、単なる出口指導(進路指導)ではない。

様々な体験的な学びを通して、自分の将来のあるべき姿を考えさせ、それを実現するには何を学ぶ必要があるか、そのためにどの系列を選択するかなど、「将来の夢=自分の生き方」について考える経験を積ませることが目的である。このような経験から、人生の中で様々な困難に直面した時、どのように対処するのか、これからの人生をどのように生き抜いていくのかといった、生きる力を育むことにつなげていきたいと考えている。

今後も、人生を主体的に切り拓くための学びを確立するためのキャリア教育を推進していく。